

是非みなさんにお読み頂きたい記事

「新地町を見つめて」 ヨコ組 P 5～10

「あの日から・・・」 ク p11～13

被災地の現状を記した両記事は、なんとしてもみんなに読んで欲しいものです。

ICUで学ぶアリソン・クウェッセルさんが、被災地が立ち上がりつつある姿を日常の中に見出そうとしています。そして、陸前高田RCの幹事さんが、当時から現在までを抑制した筆致で、客観的・冷静に記されました。しかし、読むうちに強烈なイメージが浮かび、胸が締め付けられ涙なしに読めません。

我が地区でも復興支援委員会中心に息永く活動していますが、今一度この記事を読んで心を引き締めたいと痛感しました。

「日本人のこころと平和」 タテ組 p2～6

我が地区出身の本田教授を、岩出RCが招聘した時の講演録です。

日本人の本質「誠のこころ」は、外国人には理解されにくいと言い、「平和」と向き合うには「正義」をきちんと把握しておかねばならないと述べています。

読んで面白い記事

「青少年交換が平和を築く」 ヨコ組 P1

田中 RI 会長が、少年時代に世界への旅を夢見ていたと述懐し、今我々の青少年交換プログラムがそれを実現し、未来の世界平和に繋がることを述べています。

「RON BURTON」 ヨコ組 P28～32

RI 会長エレクトへのインタビューです。

入会一年半で退会を考えたという。ガバナー就任2時間前には、辞任を申し出ようとダイヤルを掴んで30分悩んだと述べています。その率直な告白に感服もし、誰でも悩むことがあることに親近感を覚えます。

次のページの「友」二神編集長の国際協議会レポートも、RI 会長エレクトの様子などが分かります。

感銘を受けた記事

「歴史の目撃者たち」 ヨコ組 P22～27

新しいローターアクト達の地道な活動写真として、眺めてもほほえましい。

同時に、ウクライナとは、ドイツ侵攻、ソ連支配を耐えしのび、かのチェルノブイリも体験してきたと知ってこの老人の方々を見ると、若者との交歓シーンが一際素晴らしいものに見えて来ます。

地区から「情報発信」された方々

「タテ組」

「日本人のこころと平和」 岩出RC(本田悦朗教授) 講演録 P2

俳壇

「木枯らしを連れて駆け行くランドセル」 御坊RC 野村 浚一 P12

「暮れ早し水上バスの灯が走る」 堺フェニックスRC 米田真理子 P13

柳壇

「回転のしない寿司屋で誕生会」 新宮RC 塩崎 公治 P13

「ライバルの遺影ほほえむ通夜淋し」 田辺RC 長野 羊 P13

バナー自慢 大阪金剛 RC P14

ロータリーアットワーク 「Welcome Garden 贈呈式」 泉佐野RC P24